



編集・発行
日蓮宗 能勢妙見山
広 報 部
〒563-0132
大阪府豊能郡能勢町野間中
電話 072-739-0329
FAX 072-739-2883

森の仲間たち

倉橋 觀隆

ある森に入ったらこんな
声が聞こえて来ました。耳
を澄ませると杉とタンポポ
が話をしているではありま
せんか。たんぽぽが杉に向
かって言いました。

「杉さんはいいいですね。背
がすらーっと高く堂々とし
てみんなからいつも尊敬さ
れている。それに日もいつ
ぱい浴びられるし、雨も思
う存分受けられるもの」

すると杉が答えました。
「何を言っているんだタン
ポポ君。君の方がよっぽど
いいよ。僕なんかいつも日
に照らされて暑さを我慢し
なきゃならない。君は僕の
陰で涼しく過ごせている

じゃないか。雨が降れば僕
はいつもぶ濡れ。その点
君は雨にほとんど当たらず
適当な湿り気。背の高い僕
なんか風が吹いたらあつち
へ揺られこつちへ揺られ踏
ん張って立っているのが大
変だよ」

その時、森を支えている
地面が言いました。
「杉さん、タンポポ君、君
たちはいいよ。俺なんかい
つもみんなを支えていなけ
ればならないんだから。休
む暇なんてないよ」

それを聞いたタンポポが
ハツとして咳きました。
「そうですよね、杉さんの
お陰で可愛い花をいつまで
も咲かせていられるんです
ものね。忘れてました」
杉が答えました。

「そうだ、タンポポ君が根
元にくっついてお陰で、俺
の根っこにくっついて液を
吸う苦手な虫が寄りつか
ないんだよなあ」

地面が言いました。
「そうだなあ、みんなが乗っ
かってくれているから大き
な雨でもわしは流されず
いられるんだよなあ」

杉も言いました。そして
たんぽぽも言いました。

「みなさん、ありがとう」
そしてみんな笑いました。
「ワツハツハハ…」

相手がいいなあど妬む心
からは差別が生まれひいて
は争いが生まれます。一方
相手を理解しようとする
と互いに支え合っていると
とに気づき、そこから本
当の平等が分かります。成
長が始まるのではないで
しょうか。これが仏様の願
いなのです。

《法華經に学ぶ現代》

純智庵

其の舌根に

在かば

皆変じて

上味となり

天の甘露の

妙にして

美かざる者

なけん

『法師功德目品第十九』

「つなみと題した
被災地のこどもが綴った作文集
辛い悲しい思い出を
素直な言葉で書いてます

涙が言葉の露となり
真珠のように光ります

「もらった一個のおにぎりを
十分くらいかけて食べました(小六男子
要らぬ説明止にして
この子の気持ちを胸に抱き

お米の一粒ひとつぶが
天の甘露となるように
私は祈りを捧げます

【2月の主な行事】

☆節分星祭祈禱 3日(日)
◎一年間の息災開運の特別祈禱
9時～16時30分まで受付

☆国禱会・お火焚祭り 11日(祝)
10時 国禱会法要
10時50分 お火焚祭り
11時30分 車両交通安全祈禱
火伏守り授与・大根炊き供養
・ケーブル・リフトは運休

★月例祈願法要 15日(金)13時
★月例祈願法要 15日(金)15時
※2月の写経と茶論は休みます

【3月の行事予定】
☆報恩大祈禱会 3日(日)10時半
荒行僧出仕。水行・特別加持
・ケーブル・リフトは運休

★写経会 10日(日)11時
★月例祈願法要 15日(金)13時
願い事を書いた兜矢を献納

★星嶺演奏会 17日(日)11時
星嶺で聞くミニコンサート
★月例祈願法要 22日(金)15時

《送迎車のご案内》
ケーブル・リフトは3月15日まで
運休です。御祈禱・回向等を
受ける方、奉賛会会員には能勢
電鉄妙見口駅・妙見山上まで
当山から送迎車を出します

事前予約が必要です。必ず、
2日前までにご連絡下さい
電話072(739)0329

人生百年時代

服部憲厚

祖母の趣味は、裁縫である。ほぼ毎日針を持ち、出会う人、縁ある人ごとに手縫いの巾着や手提げ袋をプレゼントしている。

数年前その手が止まったことがあった。それは、九十も半ばを過ぎた祖母が風邪をこじらせ一週間ほど寝込んだときのことである。「今まででこんなに臥せったことはない」と看病する母は言い、見守る我々家族も「歳が歳だから」と相当に心配した。もしもの時までいろいろと想像が及び我が家に暗雲が立ち込めたある日、病床の祖母は確かにこうつぶやいた。「こんなことでは先が思いやられる！」

齢九十を過ぎた人とは思えぬ言葉に、家族は安堵を超えて笑い崩れた。まさか翌朝、本当に起きて針を持つ

ているとは恐れ入った。以来この出来事は我が家の語り種となっていて、得てして祖母の心配はたいがい外れるのである。

大正八年生まれ。祖母は今月で満百歳を迎えた。思いやられるどころか、今でも朝昼晩しっかりと食べ、日常生活も介護なし、相変わらず趣味の裁縫を楽しんでいる。こんな百歳ならなってみたいと思うが、不安もよぎる。

人生百年時代といわれる昨今。平均寿命は戦後から右肩上がり延び、これから祖母のような超高齢者がどんどん増えることが想定されている。

働き方、年金制度、医療問題…と不安は山積。人生設計や国の仕組みまで何事も百まで生きることを想定して考えなくてはならないと騒がれているが、祖母は「まさか、自分が百まで生きる」とは夢にも思わなんだわ

日蓮宗大荒行。その修行僧が身に着けるのは麻の袈裟衣だ。実はこの姿は私たち出家僧の死に装束である。私たちが臨終を迎え棺の中に入る時は、この姿になるのである。修行僧のこの装束には二つの意味がある。一は、すでに仏の弟子として出家した時点で身命を

☆☆☆☆星のたより☆☆☆☆

仏に委ねたという、その原点を忘れずに修行するという心を示すため。二は、たとえ力及ばず修行中端に倒れても、最後まで志を貫くという姿勢を表すものである。外で待つ身としてはただ無事の成満を祈るばかり。二月十日行僧はその荒行を終えて成満を迎える。K.J

と笑い飛ばした。お釈迦さまの金言。法華経には「誰しもこの世に使命を持って生れている」と説く。使命とは、祖母を見ていると何も特別なことをする必要はないようにも思う。ただ今日の一日を誰かの笑顔のために生きる日々の積み重ねである。人生百年時代を生きぬく生きたモデルに学ぶところは多い。今日も祖母は、誰かのために針を握る。

俳壇 (みのり)

威勢よき太鼓のひびく寒修行
母の齢いつしか超えし歳の豆
駅出づや風花の舞う街静か
寒雀足すべらせるトタン屋根
春立つや川面に映る雲ゆうゆう

法華経茶話

三草二木喩(一)
続いて三草二木の喩えについてみていきます。三草二木の喩えは『薬草喩品第五』に説かれる教えです。

この世界には小さな薬草、中くらいの薬草、大きな薬草、大きな木、小さな木のように様々な草や木があります。そこに雲から等しく雨が降り注ぎます。その雨は小さな花にも大きな木にも、平等に降り注ぎます。その雨をうけて、どんな小さな根も茎も葉も、みんな生き生きと成長するのです。降り注ぐ雨は平等ですが、小さな花は小さいなりに、大きな木は大きいなりに、その受け取る量は異なります。それでもそれぞれが自らの命を精一杯輝かせ、生き生きと成長していくのです。そうした現実世界には個体差があっても、仏さまのお慈悲は降り注ぐ雨のように、平等に注がれるのです。